

第1回守山市中間支援組織あり方研究会

日時：令和5年5月30日（火曜日）午後6時10分から午後8時10分まで

場所：守山市民交流センター サロンルーム

委員：深川委員長、遠藤副委員長、織田委員、佐子委員、三重委員、八尋委員、小島委員、
原田委員

事務局：嶋本 環境生活部理事、林 環境生活部次長、

高田 市民協働課課長、西村 市民協働課参事、村井 市民協働課主任

発言者	会議内容（要旨）
理事	（開会の挨拶）
事務局	委嘱状について案内
各委員	各委員自己紹介
事務局	要綱について説明
委員長	委員長の選任 事務局一任の声があり深川委員を推薦する。 副委員長の指名 委員長より遠藤委員を指名される。
事務局	守山市の市民活動についての現状と課題の共有について （パワーポイントを使って事務局より現状説明）
委員長	今の説明を聞いて、質問等があればお願いしたい。
委員	相談の件数がないが、現状はどうか。
事務局	昨年度は0件。まちづくり提案型助成金についての相談はあったが、今やっている活動について法人化したいとかほかの団体とつながりたいといった相談等はなかった。
委員	市民交流センターでNPOの相談を受けていることを知らなかった。助成金についても、あまり詳しく載っていないと思う。
委員	この建物は公民館的な要素で市民が利用されていると思っていた。本庁の市民協働課でも相談は0件か。
事務局	これまでこの市民交流センターの指定管理を担っていたところが、指定管理ができなくなったので、やむを得ず市民協働課の協働推進係がこちらに事務所を移した経緯がある。市民活動に関する相談は協働推進係が、自治会に関する相談は本庁の市民生活係がうけている。
委員	今回の課題は2つあると思う。1つは、中間支援組織のありようをどうするか、もう1つは、拠点のこの施設をどうするか。令和2年度末で指定管理者をやめられたのは、どういう理由か。中間支援だけをする団体は守山にはなかったのか、あれば、それだけを委託すればよかったのではないか。 中間支援も施設管理も直営でやっているが、結果、なかなか中間支援は市民活動をやっている団体に寄り添っていなかった。何が課題かが重要。守山版の中間支援

事務局	とはどんなものか。 令和2年当時、施設管理が負担になって続けられなくなった。団体が高齢化したことと、トレーニングルームの夜間利用者が多く、管理が大変であったと聞いている。
委員	指定管理時代の相談件数はどうか。
委員	数は多くないが、それなりにあったようだ。
委員長	研究会で議論する内容を改めて確認すると、守山において、どのような中間支援が求めているのかということ、本研究会の議論を通じて、事務局は捉えて行きたいのと思う。例えば、子育て支援や環境保護の団体や取り組みに注力してエンパワメントするかといった守山の地域特性を鑑みた方向性を議論したり、この拠点のあり方について検討したりすることが求められる。あわせて、中間支援や拠点の担い手をどうするのかについてご意見も聞いていきたい。事務局の現状説明に対して、もう少し皆さんから質問をいただいて、これまでの経過や背景についての知識の土台をあわせたい。そのうえで、これからどこに向かって議論をしていけばいいのか、委員間でベクトルを合わせていく必要がある。事務局への確認になるが、中間支援を担っている方や市民活動を実践している方から意見やアイデアをもらい、それを提言書にまとめて具体化するという位置づけでよいのか。
委員	現状報告をみると、守山は活動団体も多いし、事業もたくさんあるという印象。一方で、提案型まちづくり支援事業では合わせて20団体に助成金を出しておられるのに対し、草津市コミュニティ事業団はもう少し数を絞っている。丁寧な伴走支援をしていこうとすると、相当なエネルギーが必要で、人的サポートや公益団体とは何かという部分の理解促進が必要だと思う。守山市は、助成金をもらったらそれでおわり、エンパワメントの側面が弱いと思う。 また、草津市は助成金、講座、広報、交流の4つの事業をやっているが、守山市でも大体同じようなことをしている。ただ、広報だけがない。草津市の広報は、イベントの告知だけではなく実践（人）に対して注目している。読んで感じた人の次の行動を促すような広報を作成している。 今やっている事業を新しい組織には、同じボリュームで渡すのか。アレンジを加えるのか、もう少し絞っていくのか、また、エンパワメントにどれくらい力を入れていくのが気になるところ。
委員	公営であれ民営であれ人を雇わないといけない。指定管理にしても委託にしても、ある程度予算をとって中間支援をやるのか。参入をしたい団体が入ってくるのか、ここで団体を育てていくのか。支える団体がお金に困っていたら支えていけない。草津市や大津市ではどのようにお金がまわっているのか。
委員長	事務局は、人材や団体を育てることを念頭にされていると思う。上位計画にも「中間支援組織をはじめとする多様なまちづくり活動を支援する体制づくり」とあり、施設の管理だけでなく、専門性の高い人材を入れていかないといけないと思う。
事務局	予算のことになると、なかなか議会对応等もあるので、はっきり申し上げにくい

	のですが、担える団体やノウハウを持つ団体があればお願いしたい。草津市や東近江市も先をいっているところが、どれくらい人件費の予算をつけておられるのかを参考にさせてもらったりしながら、同じ規模で予算をつけるのは難しいかもしれませんが、それもまたこの研究会でも議論をしていただいて、さらに庁内で共有し議論していくことになると思う。
委員	市民活動団体からの相談件数はゼロであったとしても、助成金を受けている団体から団体とつないでほしいとか相談はなかったのか。助成金を交付した後の活動共有とか課題の共有とかはどうか。活動団体の方は何か相談したいことはなかったのか。
委員	そもそも発想がなかった。相談する組織があるとは知らなかった。
委員	ほとんどの方は、実際に運営されている方も、これが中間支援組織という意識はないと思う。助成金を出しているところに事務局があるので、相談しに行くというかたち。自分たちが中間支援組織をやっているとは思っていない。
委員	何かあったら相談に乗ってくれる人がいるなどか、相談したいなという関係性ができているかどうかだと思う。
委員	そういう意味で、助成金をだしている中間支援団体は結びつきが強い。
委員	助成金はきっかけ。助成金の伴走支援でお世話になって、ここならいろいろ相談にのってくれるな、いろんなところとつなげてくれるなという体験をされると、別の団体に紹介してくれる。
委員	助成金をもらっているところがこんなにあるのに、どこも相談にこないことが不思議。
委員	他の助成金をうけると、ほかの団体はこんなことしていますという報告書があるけれど、守山市はない。
委員長	成果発表会のようなものがあると思う。
事務局	フォーラムの際に2団体の発表があるのと、さんさん交流フェスタで中間発表という形でパネル展示はしている。
委員長	こういう議論がとても重要で、ここに伸びしろがあるということ。次の議論につながっていく。一方でそれを可能とする体制も必要である。京都市中京区でも成果発表会で団体同士をつないだりするが、区職員だけではなく、京都市まちづくりアドバザーといった、それなりの体制が必要である。ここからは課題を中心に議論したい。小島さんにお尋ねしたいのですが、福祉分野では助成金とか団体を立ち上げたいとかそういった相談等はございますか。
委員	ふるさと納税の寄付をうけるにはどうしたらいいかなど日常茶飯事で相談はある。社協も助成金を出したら終わりみたいなところもあるが、強みとしては、人の異動がないのでつながりがずっと継続することと全然違う分野からも相談が入りやすいこと。中間支援を民間へ移行するメリットはそういうところかなと思う。
委員長	検討している中間支援組織も、社協の双方が団体を支援していけたらいいと思う。事務局にこれまでの助成団体の一覧をご準備いただきたい。どういうテーマの

	団体にどれくらいの助成を行ってきたのかを研究会で共有したい。こういった団体のデータの蓄積こそ宝だと思う。
委員 委員長	守山市において中間支援組織は市民協働課か。 今はそう。 もっと、中間支援機能の拡充をしたいし、それが市民活動の活性化につながると思うことになると思う。
委員	中間支援組織というよりは中間支援機能ということだと思う。組織がないところは、直接市民と行政がつながっている。問題になっているのは、行政は人事異動があるので、この行政の能力が一定程度で留まってしまうこと。どこの市町も中間支援機能を持ちたいと思っているけれども、お金がないということもあり、NPOにするか100%補助金の団体かは市の方針と財政によるところ。
委員	どこがやるかというよりもそういう機能があれば活動しやすいということだと思う。
委員	どんなにすごい人がいても、異動によってノウハウが蓄積していかないのは問題で、社協さんのような機能が継続しているのは、異動がなくて、人のつながりが蓄積していけるからこそなので、そういう組織をつくれないうことだと思う。
委員長	委員間での情報共有や、中間支援機能の課題が見えてきたところだと思う。ここからは、実践されている中でこういう機能があればいいなとかいま、課題だなと思うところがあれば、教えてほしい。どこまでできるかと体制は表裏一体にあり、今後議論していかなければならない話ではあるが、中間支援を実践している方からもこういう機能がいいねとかいうのがあればお願いしたい。
委員	草津では、地域や学区のまちづくりを10年ほど前からまちづくり協議会でやっていこうと変わったが、担い手の力が継続していかない課題があって、市民活動支援で得たノウハウをまちづくり協議会の支援にどう生かそうかと実践しているところ。守山市は、そういう状況ではなく、まずは市民活動団体に特化した支援をとということだと思うが、将来的に草津のように地域のまちづくりも視野にいれるなら、組織の規模なんかが変わってくるのではと思った。地域も今後は高齢化していくので、いろんなことを省力化せざるを得なくなり地域が脆弱になるまえに支援していこうとしているが、守山市さんも手の打ち方は市の施策によって変わるかなと思う。
委員	中間支援組織が乱立することはあるか。
委員	草津は、まちづくりはコミュニティ事業団、福祉分野は社協が担っており、条例で指定されている。
委員	例えば、私が中間支援組織ですと自称できるか。
委員	可能です。都会はそういうところがたくさんある。
委員	社協も中間支援組織だし、商工会議所も中間支援組織です。対象とする人が違ってくるだけで、街中にはたくさんある。
委員長	京都市もまちづくりアドバイザー制度というものがある。私の前職になるが、そ

	の役割を担う個人（専門家）が中間支援を行うこともある。
委員	長く続けられるやり方とかあるのか。守山市は県内のどの中間支援に近い形をやりたいのか。組織運営とかお金の流れとか、いろいろ最初から立ち上げるのは難しいので、いま、うまくやっているところを参考にしていけばいいのではないかな。
事務局	県内いろいろなところに話を聞きに行ったり、関東まで視察にも行ったが、いまのところここというのは正直ない。しかし、今の直営の状態は、課題等も多いことからこの研究会でご意見いただく中、公設民営でうまくやっていければと思っている。
委員	中間支援をするためのお金をどう確保するかだと思う。中間支援にどれくらい継続してお金をだせるか。中間支援団体を維持するお金がちゃんとあって、余力で施設管理をするのはわかりますが、施設管理で利益を出すのは無理。
委員	事業団も指定管理で出た数千万円の収益をまちづくり事業に還元して本来100%補助となるところの補助率を下げることで公益財団法人の役割としてやっている。それでも人件費補助は数千万円が必要。
委員長	人件費等については、体制の話になったときに、もう少し深く議論していく必要があると思う。
委員	職業として維持ができるようにならないと難しいと思う。
委員	こんな中間支援の機能があったらいいなというぜいたくな理想を話せたらいいと思う。相談件数0というのがボトムネック。こういう課題があるから、こういう機能が必要ということに落とし込めない。今、守山で活動されていて、こういうこととしてくれたらいいなと思うことがあれば教えてほしい。
委員	ホームページのアクセスが悪いと思う。自分たちの活動だけでなく、ほかの団体ともつながりやすい情報をのせてもらえれば。自分の力で横のつながりを作らないといけない。
委員	情報がわかりづらい。見つかりにくい。相談を受けるなら相談窓口だとわかるようにしてほしい。
委員長	広報は重要だと思う。周知だけでなく、助成団体もどのような団体があるかを紹介したり、あとは、市民とのタッチポイントをつくってはどうか。例えば、サロンルームの壁にホワイトボード用のペンキを塗ってホワイトボードにするといった共同作業を行うとか。
委員	相談するということについてハードルが高いのではないかな。拠点があることは重要。ここは拠点がすでにある。いろいろ機能がつけば、みんなが中間支援組織と認めるのでは。
委員	「相談と雑談のあいだに」は、長浜のキャッチコピー。まずは雑談をしにきてもらって、そこからつなげるみたいな感じ。
委員長	一つ提案であるが、「市民活動センター」などわかりやすい名称に変えることも市民に知ってもらいやすくする方法の1つとなりうる。 (チェックアウト：本日の感想)

委員	議論を深めて守山らしいものができればいいと思う。
委員	いろいろされている。継続的にサポートする体制さえできれば、ポテンシャルが高いと思った。
委員	勉強になった
委員	いろんな活動の支援をされていると思う。中間支援はなんとなく知っていた。もっと中間支援が機能すれば（いいと思う）。
委員	社協の存在意義がどうなっていくか楽しみ。
委員	継続できる組織を作っていく必要がある。ニーズをつかんで支援できるように。
委員	お金の話はシビア。どこも課題はたくさんもっている。みんな同じ。
委員長	人材についてもどういう人材が求められるのか、広報の工夫や仕組みなどについても今後深めていければと思う。